

巻 頭 言

取締役

鉄鋼企画・営業本部 副本部長補佐

中西 輝 行



戦後半世紀の間に日本の経済は大きく変貌し、超経済大国と言われるようになったが、それほど豊かである生活実感はない。これは相対的に社会資本の整備が遅れていることや、円高と内外価格差で不況対応に追われる企業が多いことも一因であろう。鉄鋼業においても、企業の構造改革を図り、国際競争力の確保に躍起である。その大きなテーマの一つが物流問題であり、いわゆるロジスティクスのアプローチによるトータルコストの最小化の視点で物流問題を考える必要がある。

当社における物流合理化投資は、1980年代前半を第一段階として、吊具の自動化、遠隔操作化、輸送機器の大型化、情報処理のコンピュータ化等々の製鉄所構内の作業環境の改善や省力を追求する投資が主体であり、合理化の遅れは否めなかった。

1989年より、第二段階として一貫化の視点で構外物流も視野に入れ、キャリアパレット、オペレータガイダンスシステム、全天候パースおよび物流計画システムを基軸とする一貫物流体制の構築を進め、1993年の内航物流一貫計画システムの稼動で一応の区切をみた。いわば次の飛躍に向けた基盤整備の段階であった。これらの活動成果をこの度の物流小特集として掲載することは、尚早かと躊躇するところであったが、敢えてご批判を仰ぐことにした。残された課題として、ロットと荷揃えの問題、構外輸送における各種法規制の問題、梱包の簡略化等、輸送部門の純技術的な改善だけでは解決のできない問題が数多くある。特に、総重量規制と道路渋滞の問題によるトラック輸送の低生産性の解消は今後の大きな課題であり、また梱包の簡略化についても、顧客の皆様のご理解と協力を仰ぎながら鋭意進めて行きたい。

現在は、販売や生産と物流部門が一体となった体制で、需給の波動に迅速に対応できるフレキシブルな新物流体制の構築と、国際競争力を確保できる物流コストの実現を目指して、経営課題として取組んでいる。この成果は次の機会を得てご報告したい。未熟な点も多いと思いますが、多少なりとも関係各位のご参考となれば幸いです。